

Point!

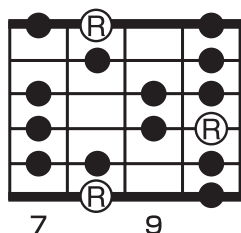
## ポジション確認

8ページに引き続き、Cメジャー・スケールのポジションをあげておきます。このフレーズでは④、⑤を使っています。

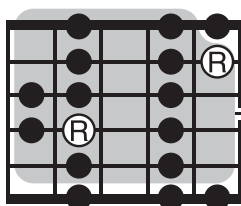
2小節目最後のC(2弦13フレット)から⑤ポジションにチェンジしています。3小節目のA音(1弦

17フレット)のように、想定しているポジションからさらに上の音が欲しくなったときなどは、スライドしてポジションを拡張してあげて、また元のポジションに戻るようにしてあげると、スケールポジションを見失わなくて済みます。

Cメジャー・スケール③

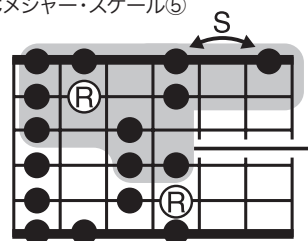


Cメジャー・スケール④



フレーズで使っているポジション

Cメジャー・スケール⑤



フレーズで使っているポジション

Point!

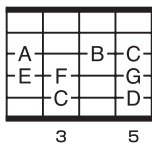
## メジャー・スケールが基礎になるワケ

メジャー・スケールが全ての基礎になる理由は、現在の音楽理論がメジャー・スケールを基準に定義されているからです。次の言葉を覚えておくと便利です。

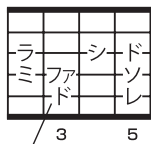
- 音名(C、D、E…) 絶対的な音の高さ。
- 階名(ド、レ、ミ…) 耳でどう聞こえるか。ルートが変われば「ド」の位置も変わる。(例：Gメジャー・スケールではGが「ド」)

•音程(R、M2、M3…) スケール音の順番、ルートからの距離(階名とほぼ同義)。M2(レ)、P4(ファ)、M6(ラ)は9th、11th、13thとも呼ばれ、これらをテンションと言う。

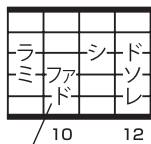
※音名をド、レ、ミ…と呼ぶ「固定ド」という考え方もありますが、本書ではド、レ、ミ…は階名(移動ド)で統一しております。

Cメジャー・スケール  
(音名表記)

3 5

Cメジャー・スケール  
(階名表記)

C(ルート)

Gメジャー・スケール  
(階名表記)

G(ルート)

Cメジャー・スケール



音名 → C D E F G A B  
階名 → ド レ ミ ファ ソ ラ シ  
音程 R M2 M3 P4 P5 M6 M7  
(9th) (11th) (13th)

M…メジャー P…パーフェクト